

2025年度 決算説明会

2026年5月21日

理研ビタミン株式会社（4526）

登壇者

代表取締役社長

望月 敦

常務取締役

富取 隆浩

1. 2025年度 業績
2. 2026年度 業績見通し

富取：皆様、おはようございます。富取でございます。私から、2025年度の業績について、ご説明いたします。業績のポイントを5点にまとめてございます。

- **売上高963億円**（前期比+0.8%） 過去最高・増収は5期連続
営業利益69億円（前期比▲20.9%）
- **国内事業は食品・化成品その他とも増収減益**
- **アスベスト除去費用の見積り変更により
営業利益が8.7億円減少。この要因を除くと国内事業は増益**
- **海外事業は中国の景気低迷や東南アジア・欧州での価格競争
激化の影響を受け営業損失**
- **中計目標に対して厳しい初年度となった**

1 点目、売上高 963 億円、5 年連続の増収、過去最高を計上することができました。一方、営業利益は 69 億円、前年対比 20.9%の減益となっております。

2 点目、国内事業は、食品・化成品ともに増収ながら減益となりました。

3 点目、2025 年度は、アスベストの除去費用の見積り変更を行い、8.7 億円の費用を計上いたしました。このアスベストの除去費用は、日本国内の資産に適用されるもので、この費用を除きますと、国内事業は増益となっております。

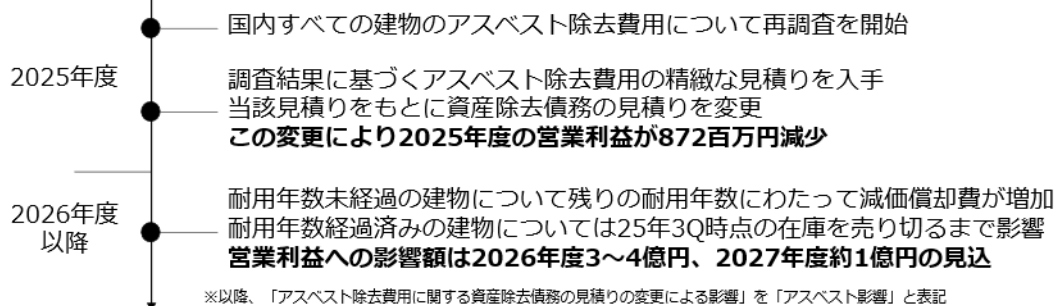
4 点目、海外事業は、非常に厳しい結果となりました。中国の景気低迷と、東南アジア・ヨーロッパでの価格競争が激化し、大きな影響を受けました。その結果、営業損失を計上するに至りました。

5 点目、中期経営計画初年度である 2025 年度は、非常に厳しい結果となりました。

- ・ 2025年度、国内で保有する全建物について再調査
- ・ 調査結果をもとに資産除去債務を15億円追加計上

PL影響額 15億円 ※主に原価に影響			
2025年度	2026年度	2027年度	2028年度以降
8.7億円	3～4億円	1億円	1～2億円

背景：中計2027の設備投資として国内設備の老朽化更新を進める中、過去の見積りを上回るアスベスト除去金額を確認



Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

4

ここで、アスベストの除去費用について、少しご説明いたします。

弊社のある国内工場の古い建物の取り壊しをした際、過去に見積もっていた金額を上回るアスベストの除去費用が確認されました。そのため、グループの国内にある建物について、調査を実施いたしました。

その結果、グループ合計で15億円の追加の資産除去債務を認め、追加で計上しております。このうち、2025年度の損益計算書に反映すべき金額として、8.7億円を計上いたしました。その結果、同額の8.7億円が営業利益を減少するに至りました。

2026年度以降も、この資料に記載させていただいております通り、金額は減りますが、継続的に織り込んでまいります。

- ・ 海外事業の損失や資産除去債務増加の影響により各段階利益は大幅に減少
- ・ ROEは3.4pt低下

(百万円)	2024年度	2025年度	増減額	増減率	業績予想 (2/12)
売上高	95,582	96,300	+717	+0.8%	96,000
営業利益	8,724	6,900	▲1,823	▲20.9%	6,200
営業利益率	9.1%	7.2%	▲1.9pt		6.5%
EBITDA (営業利益+減価償却費)	11,928	11,578	▲349	▲2.9%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	9,388	7,035	▲2,352	▲25.1%	6,500
ROE	12.1%	8.7%	▲3.4pt		8.1%

為替影響額：売上高+357百万円、営業利益▲33百万円
 期中平均レート：2024年度 152円/\$、2025年度 151円/\$

2025年度の業績について、ご説明いたします。

PL全体については、赤のハイライトの部分の通りでございます。

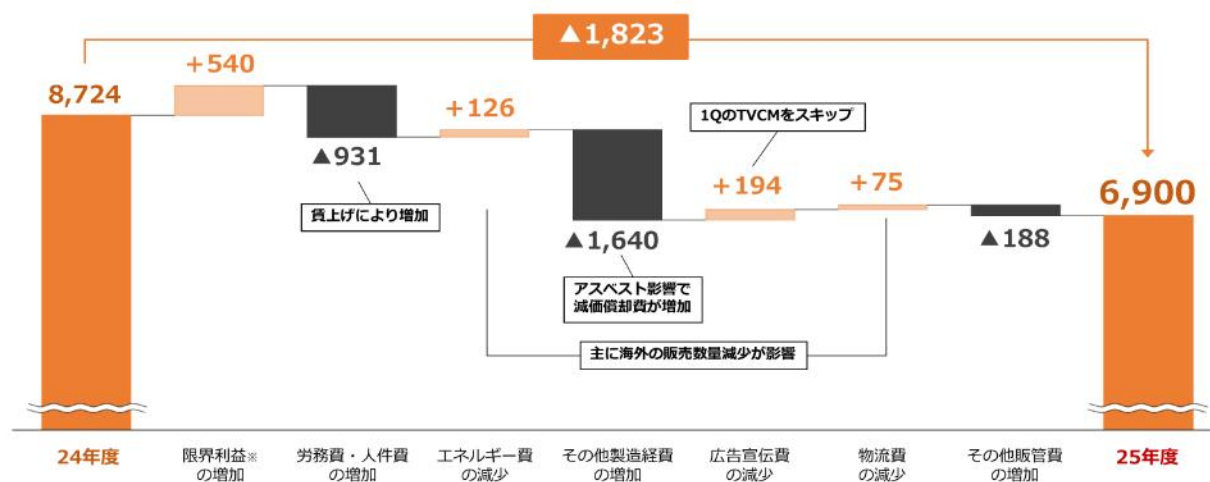
売上高は微増収です。一方、営業利益は諸々のコストの増加、そしてアスベストの除去費用もあり、大幅な減益になりました。

EBITDAは、表の中段の通り3億円減少。加えて、ROEについては8.7%と、前年度比3.4ポイント低下となりました。

為替影響額については欄外に記載をしておりますが、影響については小さいものと考えております。

- ・ 売上高の伸び悩みによりコストアップを吸収できず減益
- ・ アスベスト影響による利益下押し額は8.7億円

単位：百万円



Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

6

営業利益の増減要因について、ご説明いたします。

全体で18億円の減益となりました。

売上高の増収に伴う限界利益の増加が5.4億円をはじめ、増益要因がある一方で、減益要因といたしまして、労務費・人件費の増加が9.3億円、その他製造経費の増加が16.4億円ございました。この16.4億円のうち、半分強にあたる8.7億円が、アスベストの影響でございます。

- ・ 投資有価証券売却益は前年同期より減少も、計画に対しては上振れ
- ・ 前期の一過性要因（退職給付制度改定損）がなくなり、特別損失が減少

(百万円)	2024年度	2025年度	増減額	主な増減要因（前期比）
営業利益	8,724	6,900	▲1,823	
営業外収益	1,123	1,112	▲10	受取利息（▲66）
営業外費用	429	308	▲121	為替差損（▲102）
経常利益	9,417	7,704	▲1,713	
特別利益	4,503	2,835	▲1,668	投資有価証券売却益（▲1,527）
特別損失	1,214	295	▲919	退職給付制度改定損（▲680）
税引前利益	12,706	10,244	▲2,462	
法人税等	3,314	3,204	▲109	
非支配株主に帰属する当期純利益	3	3	▲0	
親会社株主に帰属する当期純利益	9,388	7,035	▲2,352	

営業外収支、特別損益について、ご説明をいたします。

営業外の収益・費用については、前期と比べ、それほど大きな増減はございませんでした。

特別損益についてご説明いたします。

特別利益は 28.3 億円であり、その内、投資有価証券の売却益が 25.8 億円と、大半を占めております。前年度は、この有価証券の売却益が 41.1 億円ございました。その関係で、この投資有価証券売却益が 15.2 億円減り、全体として 16.6 億円の減益となっております。

一方で、特別損失でございますが、前年度は退職給付制度変更に伴う改定損 6.8 億円がございましたが、今年度はそれほど大きな損失はございませんでした。

・ 海外事業の営業損失は2月時点の予想より縮小

(百万円)		2024年度*	2025年度	増減額	増減率	業績予想 (2/12)
国内食品事業	売上高	64,821	66,360	+1,539	+2.4%	66,100
	営業利益	6,659	6,417	▲241	▲3.6%	5,900
	営業利益率	10.3%	9.7%	▲0.6pt		8.9%
家庭用食品	売上高	13,586	13,650	+63	+0.5%	13,700
業務用食品	売上高	22,755	23,009	+253	+1.1%	23,000
加工食品用原料等	売上高	28,480	29,701	+1,221	+4.3%	29,400
国内化成品その他事業	売上高	7,959	8,686	+727	+9.1%	8,600
	営業利益	895	857	▲37	▲4.2%	820
	営業利益率	11.2%	9.9%	▲1.3pt		9.5%
海外事業	売上高	24,199	22,893	▲1,306	▲5.4%	23,000
	営業利益	1,120	▲436	▲1,556	-	▲550
	営業利益率	4.6%	-	-		-

Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

*2025年度よりセグメント営業利益の測定方法を変更。2024年度の営業利益は変更後の測定方法に基づいて作成した数値を記載

8

セグメント業績について、ご説明をいたします。

国内食品事業につきましては、前期比 15 億円の増収ながら、2.4 億円減益となっております。

国内化成品その他事業については、前期比 7.2 億円の増収、一方で、0.3 億円の減益となっております。

海外事業については、13 億円の減収、15.5 億円の減益で、営業赤字となりました。

表の右側、2 月 12 日に修正いたしました業績予想については、なんとかクリアできた格好でございます。

・ アスベスト影響を除外すると国内食品事業は増益、国内化成品その他事業は若干の減益

(百万円)		2024年度	2025年度 (調整後) *	増減額	増減率
国内食品事業	営業利益	6,659	7,258	+ 599	+9.0%
	営業利益率	10.3%	10.9%	+0.6pt	
国内化成品その他事業	営業利益	895	879	▲15	▲1.7%
	営業利益率	11.2%	10.1%	▲1.1pt	
海外事業	営業利益	1,120	▲426	▲1,547	-
	営業利益率	4.6%	-	-	
調整額 (セグメント間消去)	営業利益	49	62	+ 12	
連結合計	営業利益	8,724	7,773	▲950	▲10.9%
	営業利益率	9.1%	8.1%	▲1.0pt	

*アスベスト影響を除外した参考値

ここで、アスベストの影響を除く営業利益を、前年度と比較をしております。

国内食品事業は、前年度比約 6 億円の増益となりました。営業利益率も 0.6 ポイント上昇しています。

国内化成品その他事業は、わずかながら減益となりました。

海外事業については、アスベストの影響がほとんどございませんでした。

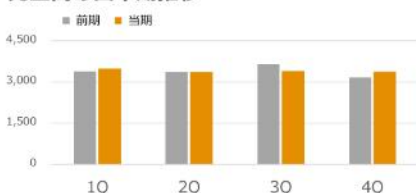
以上、連結合計では、アスベストの影響を除外いたしますと、9.5 億円の減益となりました。

- ・ わかめスープ、ふえるわかめちゃん、オイル入りドレッシングの販売が伸長
- ・ 一部の商品群で販売数量が減少するも、全体では増収

(百万円)	2024年度	2025年度
売上高	13,586	13,650



売上高の四半期推移



Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

【品群別の概況】

リケンノンオイル



金額：減少
数量：減少

青じそは堅調も
セレクトシリーズが減少

オイル入りドレッシング



金額：大幅増
数量：大幅増

新商品群の上乗せが寄与

素材力だし



金額：堅調
数量：堅調

TVCM減も大容量品が伸長

ふえるわかめちゃん



金額：増加
数量：堅調

国産は販売をコントロール
韓国産は好調に推移

わかめスープ



金額：堅調
数量：堅調

堅調な既存品 + 新商品が寄与

ふりかけるザクザクわかめ



金額：減少
数量：減少

上期苦戦も、下期コラボ品や
新商品で下げ止まり

10

国内食品事業について、概況をご説明いたします。

まず、家庭用食品でございます。

全体といたしまして、ノンオイルドレッシングの苦戦を、オイル入りドレッシングと海藻商品でカバーした形でございます。

ノンオイルドレッシングについては、青じそは堅調に推移しましたが、その他の商品が非常に苦戦いたしました。

ふえるわかめちゃんの金額の増は、要因といたしまして値上げがポイントでございます。数量は堅調に推移しております。

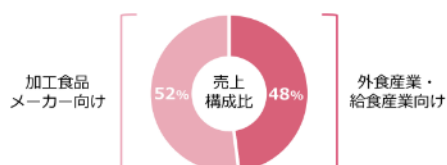
わかめスープについては、堅調に推移いたしました。

素材力だしについては、春のテレビコマーシャルをスキップいたしました。これにも負けず実績は堅調に推移いたしました。

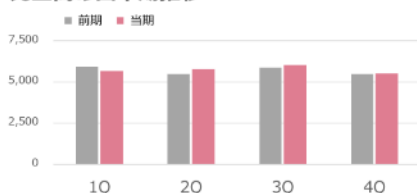
ザクザクわかめにつきましては、お米の価格高騰の影響も受けたと思われまして、かなり苦戦をいたしました。下期、新商品の梅じそを発売し、回復の兆しが見えています。

- ・ 加工食品メーカー向けでは一部需要減継続も、価格改定や新規提案によりカバー
- ・ 外食・給食産業向けは、冷凍海藻や調味料などで新規需要獲得

(百万円)	2024年度	2025年度
売上高	22,755	23,009



売上高の四半期推移



Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

【取引先業界別の概況】

● 加工食品メーカー向け

- ・ 消費者の節約意識の高まりが一部に影響したが徐々に回復
- ・ 中食市場への取り組みを強化し、一部実績化
- ・ スナックシーズニングやCVS向けの海藻商品が伸長

● 外食産業・給食産業向け

- ・ 業態や企業ごとの変動幅が大きかったものの、全体として需要は堅調
- ・ 冷凍海藻類が販売チャネルの拡大などで大幅増
- ・ エキス類や小分け調味料が苦戦
- ・ 調味料・海藻で計3回の価格改定を実施



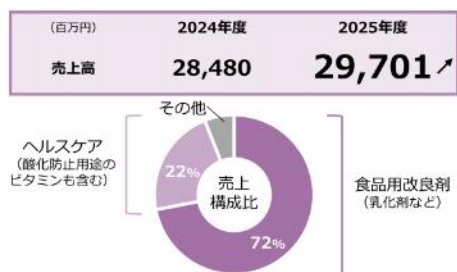
11

業務用食品について、ご説明いたします。

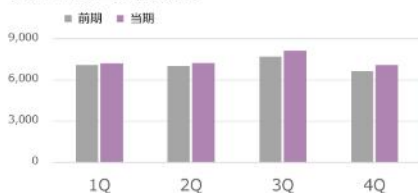
増収要因ですが、メーカー向けではスナックシーズニングが堅調で、新規採用も増えてございます。コンビニ向けの海藻商品、冷食市場では新規の採用もございまして、プラスをしております。今後の施策といたしまして、外食のプロセスセンターや、スーパーのセントラルキッチンへの提案も強化しております。

一方で、減収要因もございます。私どものお取引先の最終製品が数量減ということで、当社の製品も影響を受けております。また、コンビニのドレッシングについて、小分け調味料を私ども提供しておりますが、品数を減らしております。

- ・ 価格改定効果が徐々に発現し、実績は堅調に推移
- ・ 機能性食品原料の販売が伸長



売上高の四半期推移



Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

【製品群別の概況】

● 食品用改良剤

- ・ 主力の製パン用は期を通じて好調に推移
- ・ 豆腐業界などの和食関連が若干苦戦

● ビタミン

- ・ 酸化防止用(は上期需要減少も下期回復)
- ・ ビタミン全体の売上はほぼ前年並み

● その他ヘルスケア商品

- ・ クロセチンは飲料や健康食品への採用拡大
- ・ マイクロカプセルは売上堅調も、投資に伴うコストが増加



12

加工食品用原料等について、ご説明いたします。

こちらも増収となっております。

主力の製パン用の改良剤については、期を通じて好調に推移いたしました。業績面では、最も大きく貢献をいたしました。一方で、豆腐業界向けでは苦戦をしております。

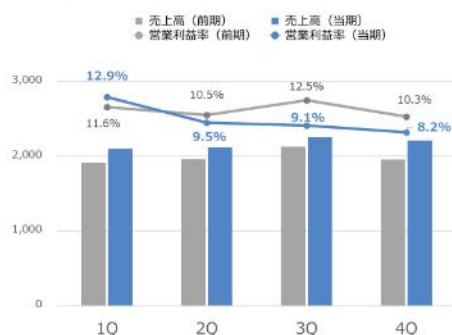
ビタミンは、全体で売上高は前年並みを維持いたしました。

その他健康食品原料は、順調に推移いたしました。特に、目の疲れや安眠をサポートするクロセチンは、順調に販売を拡大しております。

- ・ 新規テーマの実績化などにより前期比で増収も、コスト増に追い付かず減益
- ・ 中東情勢の影響を最も早く受ける事業だが、前期実績への影響はなし

(百万円)	2024年度	2025年度
売上高	7,959	8,686 ↗
営業利益	895	857 ↘

売上高・営業利益率の四半期推移



Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

【取引先業界別の概況】

- 食品包装業界
 - ・ 食品包装ラップや食品容器向け実績拡大
- 農業関連
 - ・ 農業用フィルムで環境対応品の採用増
 - ・ 農業原料の実績拡大
- 自動車業界・建材業界
 - ・ 自動車業界は不安定な動き
 - ・ 建材業界は苦戦続く



13

国内化成品その他事業について、ご説明いたします。

増収ながら減益となりました。

全体的に、価格改定の効果がございます。食品包装ラップや食品容器、また農業用フィルムでは、弊社のお取引先の売上が伸びたことから、弊社の製品の売上も伸びております。

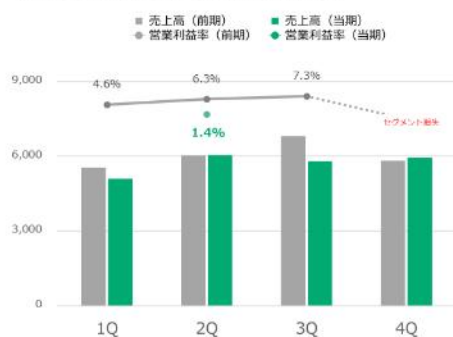
一方で、自動車業界・建材業界では、各々を取り巻く環境が厳しく、当社へも影響をいたしました。

結果として、売上は増収ながら、利益面ではコスト増を賄いきれず減益となりました。

- ・ 中国での消費低迷、ヨーロッパや東南アジアでの価格競争激化により減収、営業損失
- ・ 北米はベーカリー向け製品やエキスの販売拡大により増収

(百万円)	2024年度	2025年度
売上高	24,199	22,893 ↓
営業利益	1,120	▲436 ↓

売上高・営業利益率の四半期推移



【エリア別売上高構成比】



- ・ コモディティ品の価格競争が激化。主要な販売先である欧州、東南アジア向けの販売数量が大きく減少
- ・ 中国では景気低迷により高付加価値品の需要減少
- ・ 北米では大手ベーカリー向けの高付加価値品の取引拡大に加え、ポークエキスの販売も好調
- ・ 中東情勢の悪化に伴い、4Qに中東向け販売への減少や船賃高騰の影響あり

Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

14

海外事業について、ご説明をいたします。

減収減益と非常に厳しい結果となりました。

価格による影響が大きなコモディティ品・汎用品の市場で、価格競争が激化いたしました。非常に安価な製品が販売され、欧州・東南アジアで販売を落としております。また、中国でも景気悪化により、価格先行が発生し販売を減らしております。

一方、北米では、食品改良剤は大手ベーカリー向けで、スペシャリティ品が拡大いたしました。また、北米のみで展開していますポークエキス事業も、引き続き順調に推移をしており、北米については増収増益となりました。その結果、北米のシェアが5ポイント上昇しております。

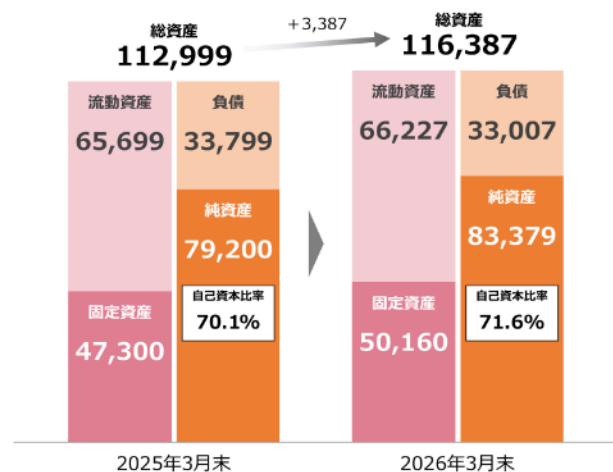
セグメント全体では、理研ビタミングループの海外事業における本部コストを賄いきれず、営業赤字となりました。

連結貸借対照表

理研ビタミン株式会社

- ・ 資産除去債務が15億円増加
- ・ 純資産の増加により自己資本比率は上昇

単位：百万円



	増減額	備考
流動資産	+527	
現金及び預金	▲2,228	棚卸資産の増加や設備投資費用の支払いなどが影響
棚卸資産	+2,449	一部製品作りだめ・単価上昇
固定資産	+2,860	
有形固定資産	+2,304	
退職給付に係る資産	+680	前期計上の反動
負債合計	▲791	
短・長期借入金	▲2,773	
資産除去債務	+1,586	主にアスベスト影響
純資産合計	+4,179	
利益剰余金	+3,638	

Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

15

貸借対照表について、ご説明いたします。

総資産で 33 億円増加いたしました。その内 20 億円は為替の影響によるものでございます。

現預金、長・短の借入金が減少、一方で棚卸資産、有形固定資産が増加しました。

自己資本比率は 71.6%と、1.5 ポイント上昇しております。

引き続き、バランスシートマネジメントには留意し、資産の効率的な運用に心がけてまいります。

- ・ 売却額とほぼ同額の評価益増により保有額は横ばい

政策保有株式の保有状況



	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
売却銘柄数(銘柄)	10	16	31	16
うち全部売却(銘柄)	8	11	20	5
売却金額(百万円)	304	2,970	5,517	3,373
売却損益(百万円)	183	2,115	4,055	2,582

- ・ 3年間で90億円の縮減を計画
- ・ 計画通りの売却を進めたが、保有株式の評価益が+33億円で売却金額とほぼ同額となり、純資産比率は1%減少にとどまる
- ・ 中計目標である純資産比率10%未満は不変

Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

16

政策保有株式の縮減につき、ご説明いたします。

この1年間で、トータル33.7億円の株式の売却をいたしまして、25.8億円の売却益を計上いたしました。

一方で、株価の上昇の影響が大きく、期末の保有株式の時価が増加いたしました。期末の貸借対照表では、わずか0.5億円の減少にとどまりました。その結果、純資産に占める比率も1ポイントを下げるにとどまりました。

今期も、中期経営計画の方針にのっとり、縮減を進めてまいります。

私より、2025年度の業績につきまして、ご説明させていただきました。ありがとうございました。

1. 2025年度 業績
2. 2026年度 業績見通し

望月：おはようございます。社長の望月でございます。私からは、今期の業績の見通しについて、ご説明申し上げます。

- 売上高は改めて1,000億円の大台を目指す
- 国内事業は増収増益、ただしアスベスト影響を除くと減益
- 海外事業はコストダウンやスペシャリティ品の拡大により2027年度の黒字回復を目指す
- 中東情勢などの先行きが極めて不透明なため、現時点で中計目標の見直しは行わない

当社は、今期売上規模 1,000 億円の到達、海外事業の収益構造転換を加速させる局面にあると認識しております。

国内事業は、増収増益で、人員強化や賃上げに伴い、実質的には減益となりますけれども、将来に向けての必要な人的投資と捉えております。

海外事業は、コストダウンやスペシャリティ品の拡大により、2027 年度の黒字回復を目指してまいります。

中東情勢などの先行きが極めて不透明な状況でございますが、現時点においては中期計画の見直しは行いません。

- ・ 幅広く食品産業を支える立場から、安定供給を最優先に対応
- ・ コストアップに対しては速やかに価格改定を実施していく

	主なリスク要因	対応の方向性
生産への影響	・ エネルギー費の上昇	・ 効率的な生産活動
原材料調達への影響	・ 包材および副資材価格の上昇・調達懸念 ・ バイオディーゼルとの競合による植物油価格の上昇	・ 特にBtoBでは安定供給を最優先に、包材の変更などについて取引先と緊密に連携 ・ 自助努力を超えるコストアップに対しては機動的に価格改定
安定供給への影響	・ サプライチェーン上での問題発生に伴う供給の目詰まり ・ 物流費高騰と海外での配送遅延	・ 取引先との緊密な連携 ・ 輸送費の転嫁と輸送手段の確保
研究開発への影響	・ 取引先の製品開発停滞に伴う当社の提案機会減少	・ 再開に備えた提案力強化

一方で、リスクについては十分に認識をございまして、対応策については準備を進めております。

想定される影響としましては、生産、原材料調達、安定供給、そして研究開発の影響が挙げられます。

当社の基本方針といたしましては、幅広く食品業界を支える企業として、特に BtoB では安定供給を最優先に、お客様との緊密な連携を行いながら対応を進めてまいりたいと思います。自助努力を超えるコストアップにつきましては、機動的に価格改定をしてまいります。

研究開発部門において、コロナの時に起きたように、取引先様での新規開発が遅れることが想定されます。再開に向けた提案力の強化を、継続して進めてまいります。

- ・ 改めて、売上高1,000億円台を目指す
- ・ 中東情勢の影響は織り込んでいない。変化する状況に機動的に対応

(百万円)	2025年度 実績	2026年度 予想	増減額	増減率
売上高	96,300	100,000	+3,699	+3.8%
営業利益	6,900	7,100	+199	+2.9%
営業利益率	7.2%	7.1%	▲0.1pt	
EBITDA (営業利益+減価償却費)	11,578	11,089	▲489	▲4.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	7,035	7,500	+464	+6.6%
ROE	8.7%	9.0%	+0.3pt	

為替前提：153円/\$

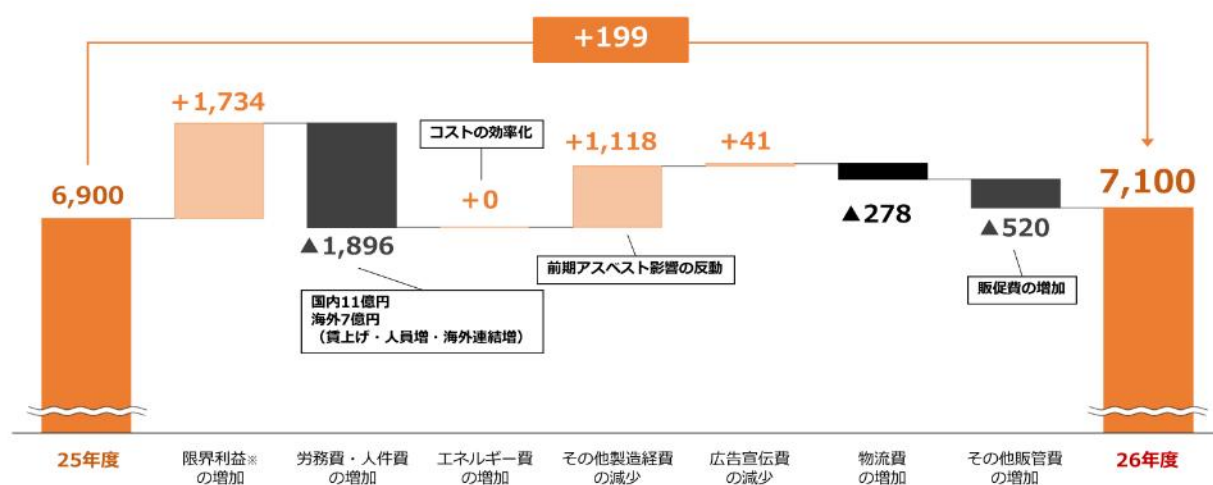
2026年度連結業績の予想につきまして、ご説明申し上げます。

売上高は、前年比 3.8%アップの 1,000 億円、営業利益は、前年比 2.9%アップの 71 億円、当期純利益は、前年比 6.6%アップの 75 億円、ROE は 9.0%を想定してございます。

為替につきましては、1 ドル 153 円を前提としてございます。

- ・ 原材料費や労務費・人件費などのコストが増加
- ・ 前期アスベスト影響の反動がプラス要因

単位：百万円



Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

21

営業利益の増減要因について、ご説明申し上げます。

販売拡大による限界利益の増加がある一方で、人件費を中心としたコスト増が上回り、結果としては小幅な増益にとどまってしまうかもしれませんが、将来成長に向けた成長投資の側面が強いと捉えてございます。

具体的には、左から2番目、販売数量の増加による限界利益の増加が17.3億円。一方で、労務費・人件費の増加によるコストアップが18.9億円と、若干上回ります。そこに加えて、物流費の増加、その他販管費の増加といったコストアップが予想されますけれども、その部分を、前期アスベストの影響の反動がプラスに寄与いたしまして、前期69億の営業利益から、当期につきましては71億円、約2億円の増益を目指してまいります。

加えて、この労務費・人件費の部分、海外向けに7億円プラスという形で出てございます。これは前年末から連結対象になりました、ベトナムとタイの人件費が加えられているのが、一つの要因になってございます。併せて、国内の11億円の増額につきましても、海外における付加価値製品の拡大のための人財育成を含んでございまして、ともに付加価値製品の拡売に向けた人的投資というコストが、主体となってございます。

・ 国内は増収も利益率が若干の低下、海外は損失額縮小

(百万円)		2025年度 実績	2026年度 予想	増減額	増減率
国内食品事業	売上高	66,360	67,200	+839	+1.3%
	営業利益	6,417	6,440	+22	+0.3%
	営業利益率	9.7%	9.6%	▲0.1pt	
家庭用食品	売上高	13,650	13,800	+149	+1.1%
業務用食品	売上高	23,009	23,400	+390	+1.7%
加工食品用原料等	売上高	29,701	30,000	+298	+1.0%
国内化成品その他事業	売上高	8,686	9,000	+313	+3.6%
	営業利益	857	860	+2	+0.3%
	営業利益率	9.9%	9.6%	▲0.3pt	
海外事業	売上高	22,893	25,800	+2,906	+12.7%
	営業利益	▲436	▲200	+236	-
	営業利益率	-	-	-	

Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

22

セグメント別業績につきまして、ご説明申し上げます。

国内食品事業につきましては、売上が672億円、営業利益が64億円。人件費・販管費の増加により、利益率はやや低下する見込みでございます。

国内化成品その他事業につきましては、売上が90億円、営業利益が8.6億円。

海外事業につきましては、売上が258億円、営業損失は縮小する方向で、2027年度の黒字に向けた途上にあると認識してございます。

- ・ 利益確保に向けたアプローチを強化
- ・ 中東情勢に対しては機動的に対応

(百万円)	2025年度	2026年度 予想
売上高	66,360	67,200→
営業利益	6,417	6,440→

家庭用食品



- ・ ふえるわかめ50周年、わかめスープ45周年にあわせ海藻商品の露出強化
- ・ ノンオイルは上期TVCMに加え、新商品投下・サブブランドのてこ入れ
- ・ 節約意識に対応し自社の強みが活かせる領域でのPB獲得

業務用食品



- ・ 都市部での攻めと地方での守りを意識した営業活動
- ・ 冷凍海藻（わかめ・もずく）の拡大
- ・ 成長市場である中食市場への提案と売上拡大

加工食品用原料等



- ・ 安定生産・コスト増対応など取引先の課題解決の提案強化
- ・ 全社コスト最適化視点で品目統合を進め、収益性向上
- ・ ヘルスケア製品は設備投資による生産量拡大に合わせ、新規獲得を図る

Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

23

セグメント別の見通しにつきまして、ご説明申し上げます。

まず、国内食品事業についてでございます。

国内食品事業につきましては、各カテゴリーの取り組みを通じ、収益性の高いビジネスの創出と、全体最適視点での収益改善を進めてまいります。

家庭用食品につきましては、ふえるわかめの50周年、わかめスープの45周年に当ります。これに合わせて、海藻商品の露出強化を行ってまいります。ノンオイルドレッシングにつきましては、上期、テレビ広告を入れる。さらに、新商品を投下してまいります。

業務用食品につきましては、都市部での攻め、地方での守りを意識した営業活動を徹底すること、また冷凍海藻につきましても、今、新しいチャンスが生まれていると捉えてございまして、これを拡大してまいります。併せて、成長市場である中食市場、つまりはセントラルキッチン・プロセスセンターへの提案と売上の拡大を進めてまいります。

加工用食品原料等につきましては、改良剤を活用した取引先の課題解決の提案強化に併せて、全社最適化の視点で品目統合を進めて、収益性の向上を図ってまいります。

活動の結果として、売上高が672億円、営業利益64億円を目指してまいります。

- ・ 計画外だが、6月頃から中東情勢の影響が顕在化すると予想
- ・ 予定していた価格改定に加え、イレギュラーな原料高騰にも速やかに対応していく

(百万円)	2025年度	2026年度 予想
売上高	8,686	9,000 ↗
営業利益	857	860 →

中東情勢の影響

- 主力製品のマスターバッチでは原料にナフサ由来の樹脂を使用
- 足元で原料価格が高騰、現状では調達できているが今後は不透明
- 機動的な価格対応を実施しながら供給の安定化に取り組む

注力分野



- ・ 食品容器用塗布型防曇剤や農業関連製品、相溶化剤などの重点拡販と数量拡大

環境対応製品の拡販



- ・ バイオマス原材料活用の独自技術で小規模ながら成功事例が顕在化
- ・ 中長期的での脱石油シフトを見据えた提案を強化

設備投資



- ・ 老朽設備の入替

Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

24

国内化成品その他事業について、ご説明申し上げます。

当社の主力製品のマスターバッチでは、原料にナフサ由来の樹脂を使用しております。足元では原料価格が高騰しており、現状では調達ができている状況ですけれども、今後、中東情勢の影響が顕在化してくる可能性はあると捉えております。

そういった中においても、機動的な価格対応を実施しながら、供給の安定化に臨んでまいりたいと思います。

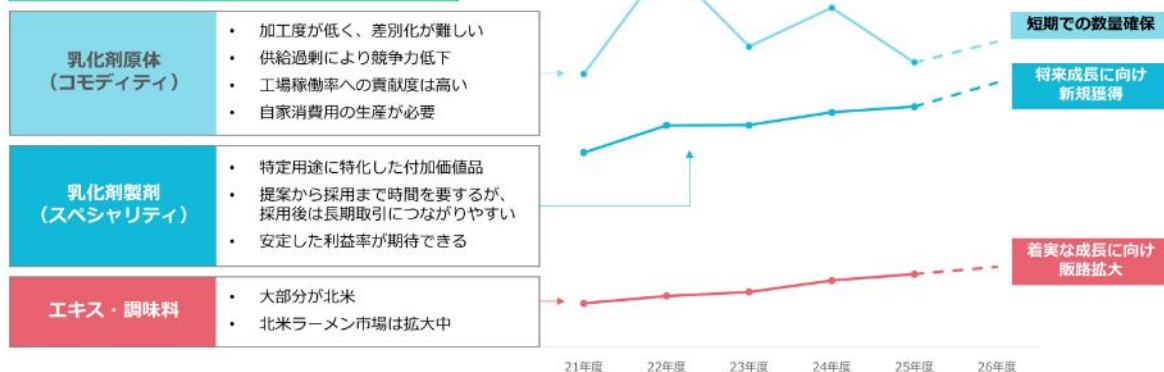
注力する分野としては、防曇剤、農業用の関連製品、それと相溶化剤などを拡販してまいります。また、バイオマス原材料活用の独自技術が進んでございまして、中長期的に脱石油シフトかつ環境対応を提案の軸として、展開を進めてまいりたいと思います。

その結果、売上につきましては90億円、営業利益8.6億円を目指してまいります。

- ・ 今期はコストダウンを行いコモディティ品の数量確保
- ・ 中長期のスペシャリティ品拡大に向けて投資を進める

(百万円)	2025年度	2026年度 予想
売上高	22,893	25,800↗
営業利益	▲436	▲200↗

海外事業の製品群別売上推移



Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

25

海外事業についてです。

海外事業につきましては、冒頭で申し上げましたが、2027年度黒字に向けて、短期と中長期の2段階での展開を、同時に進めてまいりたいと思います。

短期的には、コモディティでの数量を確保して、工場の稼働率を改善してまいります。

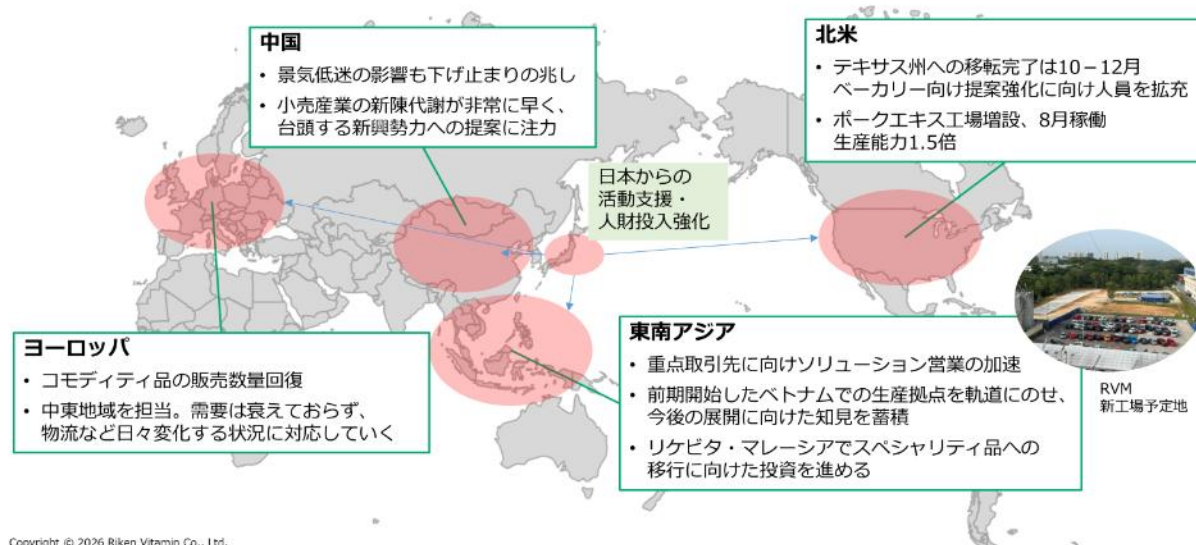
マレーシアの乳化剤現体生産工場では、コモディティのみならず、当社独自の付加価値の高い乳化剤原体の生産も行っております。これらのいわば特殊乳化剤が、私どもの付加価値製剤、乳化剤製剤（スペシャリティ）といわれている製剤のキーともなっております。これらの特殊な乳化剤を、自社製品原料として永続的に生産することが非常に求められておりますし、不可欠と考えてございます。コモディティで数量を確保して、稼働率に寄与する形で戻していきたいと思っております。

中長期的には、スペシャリティ、乳化剤製剤の比率を高めて、収益性の改善を進めてまいりたいと思います。

乳化剤製剤につきましては、提案から採用までに時間を要するわけですが、採用後は長期取引につながりやすい性質のビジネスでございますし、また安定した利益率が期待できるビジネスでもございます。当期は、移行期として捉えてございまして、人件費・販促費の増加が一時的に利益を圧迫する形となりますけれども、収益の質は着実に改善していくと捉えております。

活動の結果として、売上高については258億円、営業損益の縮小を目指してまいります。

- ・ 地域別に異なる成長戦略を実行
- ・ グローバルポジションの確立に向け、設備・人的投資を強化



26

海外事業の地域別戦略について、ご説明申し上げます。

中国は、景気低迷の影響の下げ止まりの兆しが出ております。実際、食品市場向けの展開が今、回復している状況にあり、新興勢力への提案に注力してまいります。

北米につきましては、テキサス州への移転完了は10月から12月に行います。行くと同時に、ベーカリー向けの提案強化に向けた人員の拡充を図ってまいります。同時に、ポークエキス工場の増設が8月に行われますけれども、これに合わせて、さらなる積極的な営業展開を進めてまいります。

東南アジアにつきましては、特にタイとインドネシアにおける、重点取引先に向けたソリューション営業の加速。ターゲット市場として位置づけております、ベトナムでの生産拠点を軌道に乗せてゆくこと。生産面におきましては、リケビタ・マレーシアでの、スペシャリティへの移行に向けた投資を進めてまいります。

これらスペシャリティ製品の拡販拡大に向けて、日本からの支援活動・人財投入を強化してまいります。

- ・ 配当方針に基づき、2026年度の年間配当金は110円を維持
- ・ 自己株式取得は今期20億円

■ 配当方針

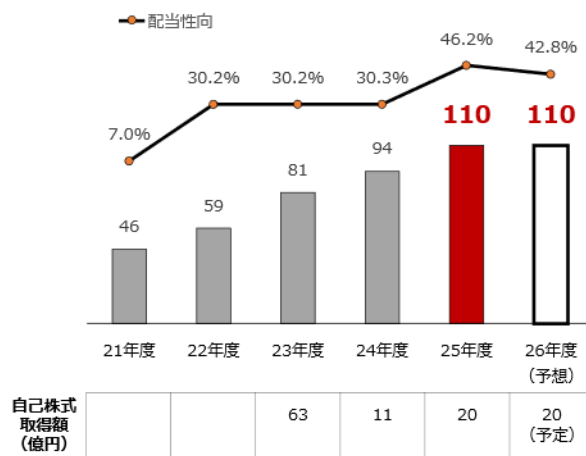
**連結配当性向40%以上を目安に
安定的な配当を継続して実施**

■ 自己株式の取得

適切な局面で機動的に実施

2025年度に続き、2026年度も20億円の取得予定

■ 1株当たり年間配当金推移（円）



株主還元について、ご説明申し上げます。

配当方針についてです。当社の配当方針は、連結配当性向 40%以上を目安に、安定的な配当を継続して実施するとあります。

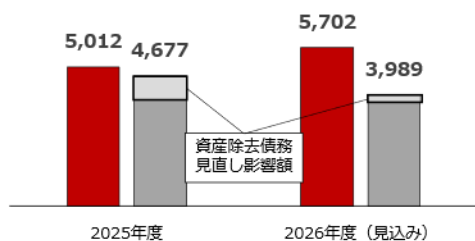
この配当方針に基づき、2026 年度の配当金は 110 円を維持する形になります。

自己株式取得につきましては、2025 年度に引き続き、2026 年度も 20 億円の取得を行ってまいります。

- ・ 設備投資額は中計目標250億円のうち大部分を27年度に計上予定
- ・ 26年度の減価償却費はアスベスト影響縮小により減少

■ 設備投資額・減価償却費の状況

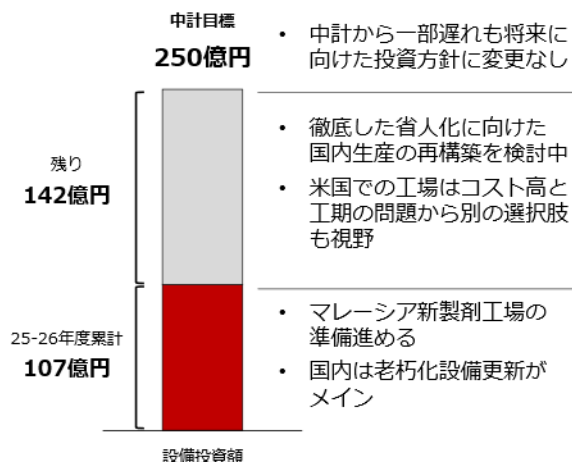
単位：百万円 ■ 設備投資額 ■ 減価償却費



2026年度の主な設備投資先	
理研ビタミン	総額34億円 (老朽化設備の更新など)
Rikevita (Malaysia) Sdn. Bhd.	総額7億円 (生産効率化など)
Guymon Extracts, Inc.	総額4億円 (ポークエキス生産能力増強など)

Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

■ 設備投資計画の進捗状況



28

設備投資および減価償却費について、ご説明申し上げます。

中期経営計画における設備投資目標 250 億円のうち、2025 年度、2026 年度の累計で 107 億円の投資を行ってまいります。

残り 142 億円につきましては、2027 年度における投資と見込んでございます。その方向性は、徹底した省人化に向けた国内生産の再構築を行ってまいります。米国での新工場の検討を進めてまいりましたが、これにつきましてはコスト高と工期の問題から、別の選択肢も視野に入れながら、検討を進めてまいりたいと思っております。

そういった中で、2026 年度の主な設備投資は、左下にございますように、理研ビタミン国内の老朽化設備の更新に約 34 億円、リケビタ・マレーシアへの生産効率化などで約 7 億円、ガイモン・エクストラクツ社へのポークエキス生産能力増強に向けて、総額 4 億円を計画してございます。

減価償却費の状況につきましては、前年のアスベストの影響の縮小により、2026 年度は減少の見込みとなっております。

- ・ 2025年度下期以降は割安感が薄れたことに加え、3Q決算での業績予想下方修正も影響し株価パフォーマンスはTOPIXを下回って推移



Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

29

最後に、株価について申し上げます。

当社の株価は2022年と比較しまして、一時的に倍近くまで上昇してまいりました。しかし、PBRにつきましては、1.0を達した後、伸び悩んでいる状況でございます。

日本全体の株価が上がり続ける中で、当社が機関投資家の期待獲得に至っていないと分析をしております。東証プライム食料品平均と比較しても、まだまだ伸びしろはあると感じております。

開示と対話を通じて、当社への期待を持っていただけるように、IR活動を強化してまいりたいと思います。引き続きのご支援、ご高配を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上で、私の説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

持続可能な社会を スペシャリティな製品とサービスで支え、 成長する会社になる



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その実現を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は今後さまざまな要因により、大きく異なる結果となる可能性があります。

お問い合わせ先：広報 I R部 pr_ir@rikenvitamin.jp

補足資料

連結キャッシュ・フロー計算書

理研ビタミン株式会社

・ 主に当期純利益の減少により営業CFが減少

(百万円)	2024年度	2025年度	増減額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,892	5,963	▲1,929	フリー・キャッシュ・フロー 2024年度 8,245 ↓ ▲534 2025年度 7,711
税金等調整前当期純利益	12,706	10,244	▲2,462	
棚卸資産の増減額	▲836	▲1,943	▲1,106	
投資活動によるキャッシュ・フロー	353	1,747	+1,394	
有形固定資産の取得による支出	▲4,678	▲4,863	▲184	
投資有価証券の売却による収入	4,990	3,906	▲1,084	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲9,965	▲8,040	+1,925	
短期・長期借入金の増減	▲6,138	▲2,773	+3,365	
自己株式の取得による支出	▲1,133	▲2,000	▲866	
現金及び現金同等物の期末残高	18,835	19,131	+295	

Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

32

連結業績推移

理研ビタミン株式会社

(百万円)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 予想
売上高	87,181	89,515	89,024	82,974	77,722	79,231	88,750	91,484	95,582	96,300	100,000
前期比増減率	▲1.0%	2.7%	▲0.5%	▲6.8%	▲6.3%	1.9%	12.0%	3.1%	4.5%	0.8%	3.8%
営業利益	6,820	5,424	4,580	5,307	1,367	5,840	7,158	9,371	8,724	6,900	7,100
前期比増減率	13.5%	▲20.5%	▲15.6%	15.9%	▲74.2%	327.2%	22.6%	30.9%	▲6.9%	▲20.9%	2.9%
売上高営業利益率	7.8%	6.1%	5.1%	6.4%	1.8%	7.4%	8.1%	10.2%	9.1%	7.2%	7.1%
経常利益	6,248	4,587	4,388	5,045	1,652	6,182	7,723	10,296	9,417	7,704	7,600
売上高経常利益率	7.2%	5.1%	4.9%	6.1%	2.1%	7.8%	8.7%	11.3%	9.9%	8.0%	7.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,089	4,800	2,623	▲8,933	▲1,618	21,582	6,414	8,755	9,388	7,035	7,500
売上高当期純利益率	4.7%	5.4%	2.9%	—	—	27.2%	7.2%	9.6%	9.8%	7.3%	7.5%
総資産額	109,342	110,994	109,706	101,853	106,535	102,660	105,223	118,776	112,999	116,387	
純資産額	53,611	58,919	59,229	46,789	46,674	66,539	71,371	76,643	79,200	83,379	
自己資本比率	48.5%	52.7%	53.5%	45.5%	43.3%	64.8%	67.8%	64.5%	70.1%	71.6%	
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,126	5,753	6,689	5,850	7,660	6,823	7,835	10,451	7,892	5,963	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲3,080	▲1,617	▲3,388	▲4,282	▲2,322	▲3,661	▲2,034	▲554	353	1,747	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,881	▲5,869	▲2,490	▲3,051	▲180	▲7,565	▲4,578	▲7,084	▲9,965	▲8,040	
ROE	6.4%	8.6%	4.5%	▲17.0%	▲3.5%	38.3%	9.3%	11.8%	12.1%	8.7%	9.0%

*2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています

Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

33

セグメント別四半期累計業績推移

 理研ビタミン株式会社

(百万円)		2024年度				2025年度				2026年度予想	
		1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	上期	通期
売上高	国内食品事業	16,441	32,267	49,503	64,821	16,373	32,785	50,352	66,360	33,400	67,200
	家庭用食品	3,397	6,754	10,412	13,586	3,495	6,861	10,272	13,650	6,900	13,800
	業務用食品	5,946	11,415	17,287	22,755	5,670	11,454	17,487	23,009	11,800	23,400
	加工食品用原料等	7,097	14,098	21,803	28,480	7,207	14,469	22,592	29,701	14,700	30,000
	国内化成成品その他事業	1,913	3,874	6,002	7,959	2,102	4,219	6,477	8,686	4,400	9,000
	海外事業	5,548	11,582	18,382	24,199	5,098	11,149	16,961	22,893	12,400	25,800
	調整額（セグメント間消去）	▲ 277	▲ 574	▲ 1,035	▲ 1,398	▲ 316	▲ 889	▲ 1,287	▲ 1,640	▲ 700	▲ 2,000
	連結合計	23,626	47,149	72,852	95,582	23,257	47,265	72,503	96,300	49,500	100,000
営業利益	国内食品事業	1,904	3,495	5,657	6,659	2,040	3,531	5,082	6,417	3,220	6,440
	国内化成成品その他事業	222	427	692	895	270	471	675	857	380	860
	海外事業	256	638	1,137	1,120	▲ 0	81	▲ 97	▲ 436	0	▲ 200
	調整額（セグメント間消去）	138	65	57	49	55	6	55	62	0	0
	連結合計	2,522	4,626	7,544	8,724	2,365	4,091	5,716	6,900	3,600	7,100
経常利益		2,927	4,786	8,241	9,417	2,531	4,368	6,403	7,704	3,800	7,600
親会社株主に帰属する四半期/当期純利益		2,370	3,255	5,834	9,388	1,825	3,361	5,949	7,035	2,900	7,500

*2025年度より、従来報告セグメントごとに配分していなかった全社費用の一部を主に海外事業に配分しています。
上記2024年度の営業利益は変更後の測定方法に基づいて作成した数値を記載しています。

Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

34

セグメント別四半期業績推移

 理研ビタミン株式会社

(百万円)		2024年度				2025年度			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	国内食品事業	16,441	15,825	17,235	15,318	16,373	16,412	17,566	16,008
	家庭用食品	3,397	3,356	3,657	3,174	3,495	3,366	3,410	3,377
	業務用食品	5,946	5,468	5,872	5,468	5,670	5,784	6,032	5,521
	加工食品用原料等	7,097	7,001	7,705	6,676	7,207	7,261	8,123	7,109
	国内化成成品その他事業	1,913	1,960	2,128	1,956	2,102	2,116	2,258	2,209
	海外事業	5,548	6,033	6,799	5,817	5,098	6,050	5,811	5,932
	調整額（セグメント間消去）	▲ 277	▲ 296	▲ 461	▲ 362	▲ 316	▲ 572	▲ 398	▲ 352
	連結合計	23,626	23,523	25,702	22,730	23,257	24,007	25,238	23,796
営業利益	国内食品事業	1,904	1,590	2,161	1,001	2,040	1,491	1,550	1,335
	国内化成成品その他事業	222	204	265	202	270	200	204	181
	海外事業	256	381	499	▲ 17	▲ 0	82	▲ 179	▲ 338
	調整額（セグメント間消去）	138	▲ 73	▲ 8	▲ 7	55	▲ 48	48	6
	連結合計	2,522	2,104	2,918	1,179	2,365	1,726	1,624	1,184
経常利益		2,927	1,859	3,454	1,176	2,531	1,837	2,034	1,301
親会社株主に帰属する四半期純利益		2,370	884	2,578	3,554	1,825	1,536	2,587	1,086

*2025年度より、従来報告セグメントごとに配分していなかった全社費用の一部を主に海外事業に配分しています。
上記2024年度の営業利益は変更後の測定方法に基づいて作成した数値を記載しています。

Copyright © 2026 Riken Vitamin Co., Ltd.

35